

あるくには、おうさまがいまして、ふうふの
あいだに、たったひとり、おしゃべりひめと
いう、おひめさまが、ありました。このおひ
めさまは、とてもうつくしいおひめさまでし
たが、どうしたものか、うまれつきおしゃべ
りで、あさからばんまで、なにかしら、しゃ
べっていないと、きもちがわるいので、おま
けに、それをきいてやるひとが、いないと、
たいそうごきげんがわるいのです。あるあさ
のこと、このおしゃべりひめは、めをさまし
て、かおをあらうと、すぐに、りょうしんの
おうさまと、おきさきさまのところにとんで
きて、もうおしゃべりを、はじめました。「お
とうさま、おかあさま、さくやは、たいへん
でしたのよ。ゆうべ、あたしがひとりでねて
いますと、どこからはいつてきたのか、ひと
りのおとこが、ねどこのところへきまして、
あたしのむねに、たんとうをつきつけて、た

からもののあるところは、どこだと、こわい
かおをしてきくのです」「まあ、それからど
うしたの？」と、おうさまと、おきさきさま
は、びっくりして、ひめにおたずねになりま
した。「それからね、あたしは、しかたがあ
りませんから、たからもののそうこのところ
へ、つれていったら、くろいうでで、かぎを